

聖書箇所：ルカの福音書 12 章 1～12 節

説教題：「主を認める」とは

1 「恐れなさい」「恐れることはありません」

(1) いったいどっちが本当なのか

静かに自分の心に耳を澄ますと、そこからは恐れや不安にふるえるような声が聞こえてきます。生まれてから今日まで恐れは私たちを支配し、苦しめてきたとも言えるでしょう。

イエスは「恐れ」について不思議な言い方をされます。5 節にこうあります。「殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。」といった 7 節にはこうあります。「それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

「恐れなさい」と言われている対象も「恐れることはありません」と言われている対象も、どちらも父なる神を指しています。「恐れなさい」と語ったかと思えば、すぐに「恐れることはありません」と言う。いったいどっちなのでしょう。

(2) 隠されているもので知られずに済むものはないから

もちろん、気まぐれで言っているわけではありません。このように表現される一つの理由があるからです。1 節。「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことです。」「偽善」とは、外側と内側が異なる

ことを言います。

数年前でしたが、食肉偽装事件というものがありました。ラベルには「牛の挽肉」とあるのに、中身を調べてみると品質の悪い豚肉や鶏肉、あるいはパンの切れ端さえを混ぜられていた。そんな事件でした。表に貼られたラベルと中身はきちんと一致していなければならない。それがフェアである、公正であるとだれもが認めます。その原則が破られると多くの人は腹を立てます。

ところが、いざこれが自分のこととなると怪しくなります。中身はどうであれ、「私は良い人間です」と書かれたラベルを表に貼らなければと考えます。貼るべきラベルはたくさんあります。「私は能力のある人間です」「私は心優しい人間です」「私は常識ある人間です」「私は優れた人間です」。

もちろん、中身とラベルが一致しているのならば素晴らしいことです。しかし、どうでしょう。ラベルと中身が一致していたでしょうか。自分のことをふり返ればよくわかるでしょう。何か後ろめたいものを感じないでしょうか。もし感じているというのなら、それがイエスの言われる「偽善」ということになります。

かく言う私も偽善者であります。今回、長期休暇をいただきました。休みに入って数日したあたりで、腰が痛くなり同時に気分が落ち込むようになりました。腰が痛くなるような運動をしたわけではありません。原因を考えてわかったことは、かなりの疲れが身体の

奥深いところにたまっていました。

「私は自分をうまくコントロールできる人間である。」それが私の表向きのラベルでしたが、実際はそうではなかった。ラベルと中身がまったく違っていた。私は偽善者です。

多くの人は心の中でつぶやきます。「だれも知らないのだからこれくらい大丈夫だ。」しかし天の父なる神は、私たちの頭の毛さえも数えておられます。私たちがどんなにごまかし、立派なラベルをつけようとも、私たちの心のなかの本当の姿を、神はすでにお見通しだと言われるのです。

(3)すでに頭の毛さえも数えられているのだから

そんな神であることを知って、ある方は言います。「神は私たちの心の秘密を点検し、警察のように取り締まっているのだろうか。そんな神ならごめんだ。」もし本当にそうならば、私もまっぴらごめんです。神を信じてくださいと、私も人には勧めたくありません。

でも主はこう言われるのです。「あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりも優れた者です。」神は、私たちのすべてを知ってくださっているからこそ、あなたがたは恐れる必要がないのだ、と言ってくださいます。これはどういうことでしょうか。

2 主を認める

これと関連することなのですが、8, 9 節のことばも気になります。「そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認めるものは、人の子ともまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。しかし、わ

たしを人の前で知らないという者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。」

ある方にとっては心に刺さることばかもしれません。自分がクリスチャンであることを言い出せなくて、なんとなくごまかしてしまった。人の前で主を認めなかったので、私も主から「知らない」と言われるかもしれない。そんな不安です。

大丈夫です。安心してください。8, 9 節はまったく別の意味のことを言っています。「主である方を人の前で認める」とはいったいどのようなことなのか。その事をはっきりさせましょう。前後の文脈から考えなければなりません。

先ほど言いました。主はすでに私たちのすべてのことを知ってくださっている。けれども私たちはアダムが罪を犯してからずっと罪の性質をもっていて、自分の心を表に出すことを恐いことだと考えます。どうしてでしょう。神が恐ろしいのです。こんなことが神に知られたら神は怒り、厳しい罰を受けるのではないか、そんなことを考えてびくびくします。だから一生懸命外側を立派に見せようとしみます。でも神はすでに内側にあるものを隅から隅まで知っておられます。どんなに隠そうとしても主の目をごまかすことはできません。

そうしますと、私たちはどうしたらよいのでしょうか。隠そうとしても無駄です。無駄なことはやめた方がよい。疲れるだけです。そのまま内側にあるものを外側に現すだけです。最初は恥ずかしく感じられるでしょう。恐ろしいと思うかもしれない。でも、主が励ましておられます。「恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

こんなふうに考えていきますと、「主である方を人の前で認める」とはこんなことではないでしょうか。

もし本当に主を認めるというのなら、あなたは偽りのラベルを貼ることをやめたらどうだろうか。だって主はあなたのすべてを知っておられるのです。

もし本当に主を認めるというのなら、内側にあるものをそのまま主に差し出したらどうだろうか。なにも飾る必要はない。なにも恐れる必要はない。だって主はこんな私たちのことをすぐれた者であると慈しんでくださっているから。

結局ひとことでまとめれば、この方の前で私たちは何一つ隠す必要はない、ありのままの姿で良い。それが主を認めることとつながると言っているのです。

先週、デール先生がメッセージの中で、「この教会には自由がある」とおっしゃってくださいました。私にとってうれしいことばであり、励ましでもありました。みんなが主の前でもっともっと自由になり、自分を飾ることなく、そのまま自分の弱さを出すことができる、そのまま自分の愚かさや至らなさを分かち合うことができる、そんな教会になっていくことを願っています。

3 聖霊の励まし

しかしそうは言われても、初めてこんな話を聞かされた方はとまどうでしょう。かえって緊張してしまいます。いったいどうしたらよいのか。最後にその事を触れていきます。

このことは10節のみことばと関係します。「たとい、人の子そしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。」私たちは赦されない

罪はないと何度も聞いてきました。たとえば第一ヨハネ1章7節にこうあります。「御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」「すべての罪から」とあるからには、赦されない罪はないはずなのです。なのにここでは「聖霊をけがす者は赦されません」とあり、いったい「聖霊をけがす」とはどんなことかと急に不安になります。

先ほど牛肉偽装事件を取り上げました。この事件が発覚したのは、会社で働いていたある方が告発したことがきっかけでした。告発した人は会社を辞めなければならなくなりました。他の人たちにも大きな影響が及びました。それでも悩んだ末に告発に踏み切りました。なぜそうしたのでしょ。理由は一つです。正しいことがねじ曲げられていることが許せない。そう感じたからです。なぜそう思うのですか。考えてみると不思議なことだと思いませんか。

私たちは罪人ですから、何が正義であり何が不公平なのか本来は正しく判断できません。でも、あるとき正義がねじ曲げられているのを見て強い憤りを覚えることがあります。聖霊が働いてくださるからです。聖霊が私たちにそんな心を与えてくださっているからです。信仰のあるなしにかかわらず、聖霊はすべての人に働いています。

そうしますと、「聖霊をけがす」とはどんなことなのでしょう。聖霊が私たちの心の内側にあつて何が正しいことなのか教えてくださるのに、その声を聞こうとせず、ごまかし続けていくこと。聖霊をけがすとは、このような意味です。ごまかし続けていく限り、主の赦しに預かるチャンスは訪れません。だから結果として、「聖霊をけがす者は赦されない」こととなります。見方を換えれば、聖

霊の働きがなければ、私たちは自分の罪を言い表すことも、弱さや愚かさを主の前に出すこともできないと言うこともできます。

このことが正しく理解されず、しばしば不適切な方法がとられることがあります。例えば、「きょうは主の前に自分の罪を言い表しましょう」というようなプログラムが用意されたりします。

何度も言いますが、人のわざでやろうとしても絶対にできることはありません。神がなさることです。聖書が12節で約束しています。「言うべき事は、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」

私はこれまで何度も、聖霊が働かれ主の前に自分を隠すことなくありのまのことを語り始めていく姿を見させていただきました。本当にすばらしい瞬間です。

私はそこでもう一つのこと気がつくようになりました。聖霊の促しによって主の前に内側にあるものを語る時、主がいっしょにいて下さるという感覚でした。一人一人が告白される、弱さと罪とを主が引き受けてくださり、この方が代わってさばきを受けて下さる。

主は、みんなにこう語ってくださいます。「恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

主の御真実な励ましを覚えて御名をあがめます。